



## 凍霜害対策とかん水で高単価期の収量UP！

本年は消雪に伴い地温の上昇も早く、2月下旬で3月中旬並み・3月上旬で3月下旬並みに推移しています。また長期予報では今後の気温も高いとされているため、萌芽が早まると予想されます。

しかし、生育が早まると低温に遭遇する恐れがあり、凍霜害の発生が心配されます。重度の凍霜害が発生した場合は2週間以上の甚大な被害を受けます。

中野市の4月出荷アスパラガスには市場からの要請が強くあり、価格メリットの高い時期です。凍霜害による被害を軽減し、収量の確保と有利販売に向け、小トンネル被覆を積極的に行いましょう。

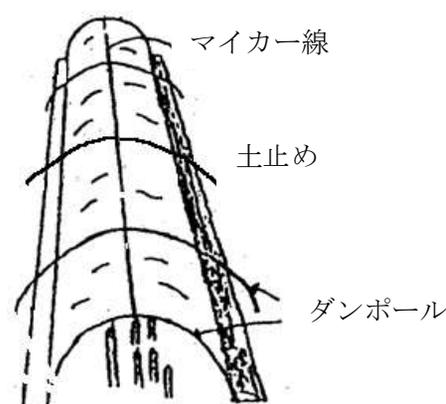
### 1. 小トンネルの作り方

◇ダンポールを1m間隔に畝にそってアーチ型に設置し、

峰にマイカー線(またはポリベル)を張る。

◇防霜資材を掛け、片側へていねいに土止めを行う。

◇ダンポールで1mごとに外止めを行う。



### 2. 小トンネルの管理

\*トンネル被覆は5月上旬の霜の恐れがなくなる頃まで行う。

萌芽までは密閉とし、萌芽後は日中25℃を限度に午前9時ごろから午後4時ごろまで換気を行う。

**外気温が-2℃以下の強い霜は、一重掛けでは凍害を防げないので、コモ・古ビニール・ラブシート等で二重掛けできるよう準備しておきましょう。**

\*トンネル使用後はフィルムの泥や水を良く落とし、冷暗所に管理しておくとい何年も使用可能。

\*ハウス内は乾燥するので、かん水を実施しましょう。

### 3. 10a当り資材必要量 (10a畝延長600mとして算出)

被 覆 資 材	必要本数	被 覆 資 材 他	必要本数
ラブシート 30WT (1.8m×100m)	6本	アスパラエース(巾 1.8m×0.07×100m)	6本
農ポリ(巾 1.8m×0.05×100m)	6本	ダンポール(5.5mm×1.8m)	1,200本

※アスパラエース、ラブシート、農ポリの2種類組み合わせとする。

※アスパラエースは、農ポリより保温効果が高い。

## 2条ハウス内の保温及び水管理

※ハウス内は乾燥しやすいので、暖かい日の午前中をねらって定期的な灌水に努める。

※日中ハウス内の温度は25℃をめやすに換気をはかり、良品生産につとめる。

※外気温が0℃以下に下がると予想される場合は、小トンネルの上に保温被覆資材を被覆する。

## ※収穫中の管理

### (1) 特別防除

対象病害虫	薬剤	散布量(10アール当り)	農薬使用量	使用時期
ナメクジ	スラゴ	1~5kg	1㎡当り1~5gを株元の土壌表面に散布する。	湿度の高い日の夕方
ネキリムシ類(ヨトウムシ)	ガードバイトA	3kg	株元に散布する。	収穫前日まで
野ねずみ	ヤソジオン	200~300g	そ穴へ投入5g小袋 40~60袋	3月中下旬~ 4月上旬
	ラテミンリン化亜鉛1%	60~120g	そ穴へ投入2g小袋 30~60袋	

### (2) 品質管理 諸症状と原因

症状	原因	症状	原因
穂先の腐敗	生育中の高温(35℃以上で発生、乾燥状態ほど被害大)	曲がり茎の発生	立枯性病害、障害物による損傷、養分不足
穂先の早期開張	高温乾燥、養分不足、灰色カビ病	茎の裂傷 切り口の穴開き	土壌水分の急激な変化、立枯性病害
首部の凍害	気温-1℃以下で発生	茎の食害 穂先の食害	ナメクジ、ネズミ、モグラ、ヨトウムシ、カスミカメ、シュウシホシクビナガハムシ、スリップス、ダニ

## 4. 露地収穫までの作業

### (1) 土壌表面殺菌

バーナーによる地表面焼却が重要病害である茎枯病に対し予防効果があり、発生を軽減できます。

アスパラガスの残茎を炭化させることがポイントで、しっかり焼くことが重要です。

- ・JAではプロパンガスバーナーを貸出します。(使用料:半日当り1,100円、1日2,200円)
- ・バーナーの申込みは園芸課担当技術員へ。(TEL23-3933) ※土日祝は貸出できません!!
- ・燃料(8kgガスボンベ)は自己負担になります。燃料課(22-4300)へ予約してください。

### (2) 中耕の実施

- \* 前年に寄せてある土をならしながら、軽く中耕する。
- \* 萌芽前に深さ5cm程度のロータリー耕を行う。

メリット

- ① 土壌が膨軟化し空気量が多くなり、地温上昇・保温効果が高まる。
- ② 一時的に雑草防止効果がある。
- ③ 保水力向上・乾燥防止効果がある。
- ④ 残茎処理が容易で品質が向上する。
- ⑤ 前年落葉した病菌を土中に埋める。

### (3) 雑草防止対策

越冬雑草の多い場合は草かきで削り取るか、またはロータリーで貯蔵根を切らない程度(深さ5cm)に軽くかける。

<除草剤使用例> \*使用時期の厳守:萌芽前に使用する。

条件	10a当り除草剤使用量
雑草がない場合 ①	□ロックス 150g または ゴーゴーサン乳剤 30 300ml、またはゴーゴーサン細粒剤F 4~6kg
雑草が生えている場合	上記①+プリグロックスL 1,000ml(展着剤不要) または ザクサ液剤 300~500ml

<注意> ① 水 100ℓ~150ℓに溶いてください。  
 ② 温暖な日に行う。  
 ③ 極度に土壌水分が多い場合や土が乾いている場合は効かない場合がある。

### (4) 春肥の施用

- \* 萌芽前(4月上旬)の土壌水分がある状態の時に10a当り「野菜一番」を40kg施用してください。
- \* 萌芽前の施用で吸収根の働きが良くなります。
- \* 土壌分析をした園地は、土壌処方せんに基づいて施肥して下さい。

## 5. 定植前の準備

- \* 春植予定の圃場は、あらかじめ土壌改良材(堆肥・石灰類)の施用、活性炭・マルチ等資材の準備をすすめておいてください。